

HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン（子宮頸がんなどの予防ワクチン）保護者向け説明
ver1.0 令和2年3月24日版

- まずは厚労省のリーフレットをお読みください。
 - <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/dl/hpv180118-info01.pdf>
 - ◇ 厚労省のQ&AのURLです。
 - ◇ https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/qa_shikyukeigan_vaccine.html
- 厚労省のリーフレットでは分かりにくいと思います。以下のサイト等も参考にしてください。
 - 子宮けい癌予防情報サイト もっと守ろう
 - ◇ HPVワクチンメーカーの啓発サイトです。メーカーが作成するサイトのため、分かりやすいです。概ね中立的には書かれていると思います。
 - ◇ <http://www.shikyukeigan-yobo.jp/outline/01.xhtml>
 - 産婦人科学会のホームページです。
 - ◇ より医学的な内容です。学会はワクチンメーカーより中立的な立場と言えます。
 - ◇ http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4

以下情報をまとめます。また一部私見が入ります。

- 今ある情報からは子宮頸がんにかかるリスクは低いものではなく、若い時にかかることが多い癌なので、かかったときに失うものは大きいです。
- 接種後の一時的なしびれや接種部位の痛みはよくあることと考えましょう。
- 重い副反応（ワクチンとの因果関係は証明されていません）が極めてまれに起こることがあります
 - 当院で定期予防接種対象者の約半数が接種をしたとして50-100年に1人程度
 - 専門医療機関への紹介が必要となる可能性があります。（愛知医科大学病院痛みセンターなど）
- 予防効果は徐々に証明されつつあります。
 - ウイルス感染は期待通りの予防効果がでています。
 - がんになる一歩手前の状態の予防効果も期待通りのデータがでています。
 - 進行がんの予防効果が証明されるまでにはあと5-10年程度かかると思われそうですが、接種+がん検診の組み合わせは、検診による早期発見の予防効果を大幅に上回る可能性は非常に高いです。
- 現在は副反応が過大評価されていると思われまます。
 - 例えば大人の胃カメラや大腸ファイバーと同じようなものと考えてもよいかもしれません。
 - ◇ 胃カメラや大腸ファイバーでもごくまれに重い合併症を生じることもあれば精神的に負担がかかる場合があるので、受ける人と受けない人がいると思います。
 - ◇ 問題はまだワクチンの歴史が浅いため（平成19年～）、予防効果と副反応のリスクが完全には確定していないことです。
- 当院ではHPVワクチン接種を勧めるかどうかについては、国が積極的に接種を勧めない現状で全員に勧めることは難しいと思います。しかし、子宮頸がんを予防したいという希望のある方に対して、情報提供をおこない、接種をしないかどうかの判断の手助けをおこないたいと思っています。

令和2年3月24日 さかたこどもクリニック 院長